

第10回旧本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会

日 時：令和3年9月2日（木）

午前10時～正午

場 所：市役所本庁舎7階全員協議会室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

(1) 「一定の方向性」を示すまでの手順について・・・資料1

(2) 活用策の比較・評価について・・・資料2

(3) 旧本庁舎等跡地活用に関する報告書について・・・資料3

4 その他

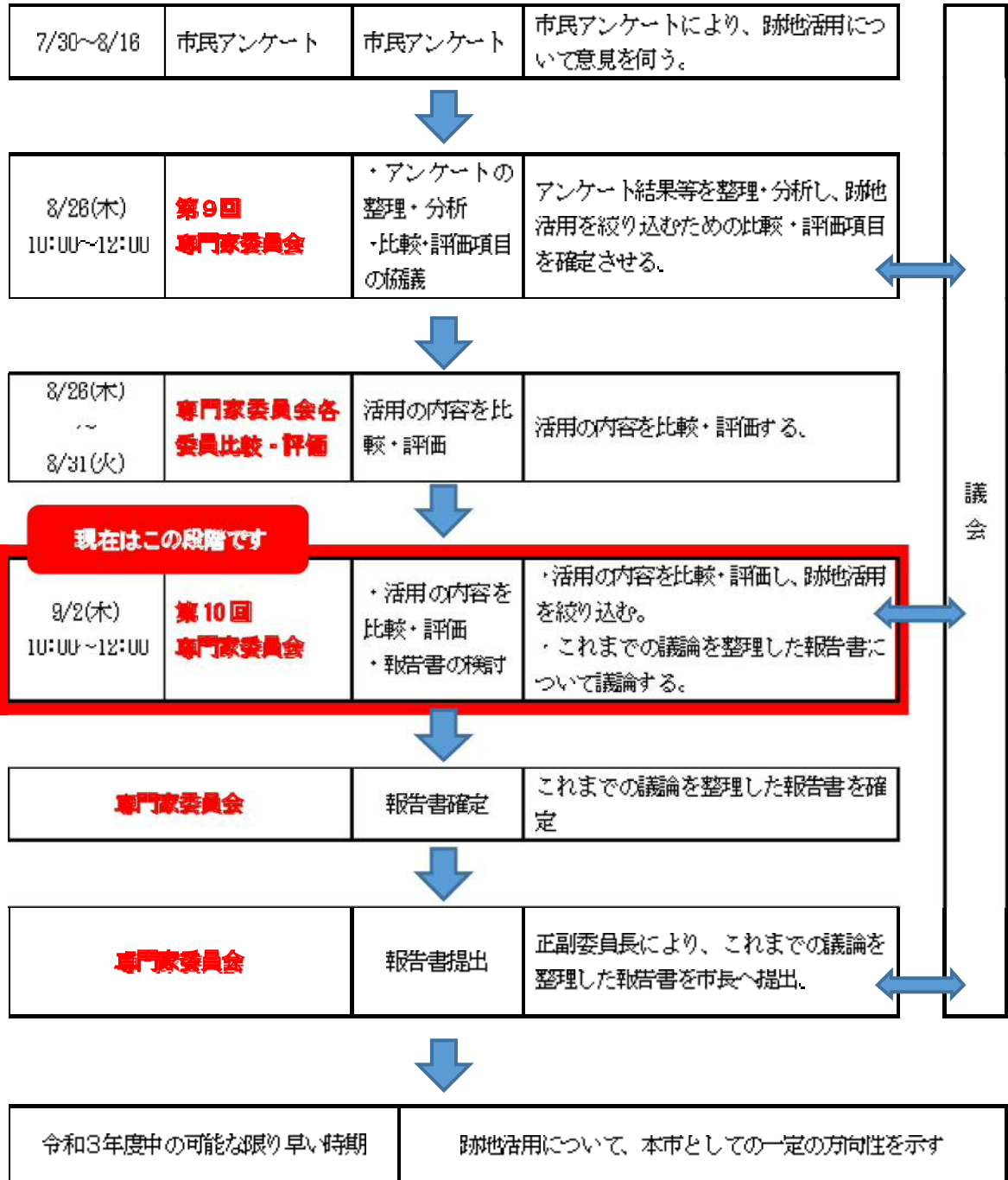
5 閉 会

「旧本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会」委員

【順不同・敬称略】

役職	氏名	所属	出欠
委員長	柳 年哉	公立鳥取環境大学 経営学部 教授	出
副委員長	福山 敬	鳥取大学 工学部 教授	出
委員	飯野 公央	島根大学 法文学部 准教授	出
委員	木田 悟史	公益財団法人日本財団 鳥取事務所 所長	出
委員	堤 洋樹	前橋工科大学 工学部 准教授	出 (Web)
委員	湯口 夏史	湯口一文税理士事務所 税理士	出

「一定の方向性」を示すまでの手順について



活用策の比較・評価について

複数案について、これまでの住民参画による意見、専門家委員会での議論、議会調査特別委員会の意見・提言を踏まえ、評価項目ごとの評価結果に基づいて、機能や活用策等に応じ多様な観点から複数案の優位性を評価する。

○:効果がある、期待できる、評価する △:普通 ×:効果がない、期待できない、評価しない

大項目	小項目	評価項目	評価基準				①多目的ホ ール		②市民が自 由に使える 屋内施設		③緑地公園 に併設した 屋内施設		④大震災時 の避難地等 を備えた緑 地公園	
			○	△	×		○	△	×	○	△	×	○	△
1	全市民が利用することができる活用													
2	にぎわい 創出・地域活 性化への貢献	①拠点性												
		②集客性												
		③回遊性												
3	財政負担 の軽減	④既存施設競合												
		⑤経済性												
4	関連計画 との整合性	⑥柔軟性												
		⑦周辺環境との調和												
		⑧公共施設経営												
		⑨創生総合戦略との関連												
総数			14	30	16	22	30	8	31	27	2	39	20	1

○活用策における優位性や課題

①	集客性は高いものの、経済性や公共施設経営に課題がある。
②	拠点性、回遊性が見込め、既存施設競合が避けられるものの、公共施設経営に課題を残す。
③	集客性・回遊性が高く、既存施設競合が避けられる。
④	既存施設競合、経済性、公共施設経営の観点で優位性が高い。

鳥取市長 深澤義彦 様

旧本庁舎等跡地活用に関する報告書

令和3年●月●●日

旧本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会

「日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会」委員

【順不同・敬称略】

役職	氏名	所属
委員長	柳 年哉	公立鳥取環境大学 経営学部 教授
副委員長	福山 敬	鳥取大学 工学部 教授
委員	飯野 公央	島根大学 法文学部 准教授
委員	木田 悟史	公益財団法人日本財団 鳥取事務所 所長
委員	堤 洋樹	前橋工科大学 工学部 准教授
委員	湯口 夏史	湯口一文税理士事務所 税理士

「日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会」会議開催経過

年月日	会議名
令和2年 5月25日	第1回日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会
令和2年 8月 3日	第2回日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会
令和2年12月25日	第3回日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会
令和3年 3月23日	第4回日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会
令和3年 4月 1日	第5回日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会
令和3年 5月19日	第6回日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会
令和3年 7月 1日	第7回日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会
令和3年 7月15日	第8回日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会
令和3年 8月26日	第9回日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会
令和3年 9月 2日	第10回日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会

1 はじめに

- 56年もの長きにわたり、市民の皆様が親しまれてきた鳥取市役所旧本庁舎は、老朽化が進んでいるため、令和3年7月から解体工事を行っている。
- 鳥取市では、旧本庁舎と第2庁舎が立地していた場所を長年多くの方々に利用され、親しまれてきた全市民の貴重な財産とされており、跡地の利活用を検討するに当たり、様々な方法で多くの方々に幅広く意見を伺ってこられ、鳥取市の活性化につながる活用となるよう、丁寧に検討してこられた。
- この報告書は、上述したことやこれまでの市民の意見を踏まえながら、求められる機能とその機能を実現するための活用について、本専門委員会でも議論されてきた内容を整理し報告するものである。

2 旧本庁舎等跡地活用

(1) 基本的な考え方

市民アンケートの結果等も踏まえ、次に掲げる活用の仕方と利用のテーマとなるよう検討してきた。

- 利用者が限定されないような活用を図る。
- 市の財政負担（建設費、維持費）を極力少なくする。
- 若者の流出抑制・定住促進につながる活用を図る。
- 近隣の商店街等の活性化に貢献する活用を図る。 など

(2) 関連計画との整合性

跡地活用にあたっては、当該地区に関連する計画との整合性を図るよう検討してきた。

- 第11次鳥取市総合計画**では、まちづくりの理念を「鳥取市を飛躍させる、発展させる」とし、めざす将来像を「いつもまでも暮らしたい、誰もが暮らしたくなる、自信と誇り・夢と希望に満ちた鳥取市」とされている。
- 鳥取市都市計画マスタープラン**では、既に高度な都市機能が集積している中心市街地を「中心拠点」、身近な生活サービス機能が集積している総合支所周辺などを「地域生活拠点」と定め、各拠点が提供するサービスを役割分担し、各拠点やその他の集落地をバスなどの公共交通で効率的に結ぶ「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の実現を目指している。
- 中心市街地活性化基本計画**では、「集い、つながる、とっとりのまち山陰東部の都市核づくり」をテーマとし、当該地区が該当する鳥取城跡周辺地区のエリアコンセプトを、「歴史・文化等を有する観光交流、豊かな居住の舞台」とされている。
- 都市計画**では、用途地域が商業地域に指定され、市民や来街者など様々な人が利用する高次都市機能の集積等による新たな賑わい空間の創出を目指しているが、**地区計画**により、宿泊施設、遊戯施設、風俗施設等を禁止している。加えて、**久松山山系景観形成重点地区**に指定し、周辺の緑や歴史的建造物等との調和を図る地区と位置付けている。

(3) 求められる機能とそれを実現するための活用策

<p>跡地活用にあたっては、これまでの議論や市民アンケートの結果等から、次の4つの活用策について評価・整理した。</p> <p>① A教育・学習・芸術・文化機能を充実するための、多目的ホール</p> <p>② C憩いの場・コミュニティ機能を充実させるための、市民（学生等）が自由に使える屋内施設</p> <p>③ C憩いの場・コミュニティ機能を充実させるための、緑地公園に併設した屋内施設</p> <p>④ Eオープンスペース機能を充実させるための、大震災時の避難地及び復旧活動の拠点としての機能を備えた緑地公園</p>
--

○4つの活用策について、これまでの専門家委員会において次のとおり評価した。

評価項目		①	②	③	④
大項目	小項目				
1	全市民が利用することができる活用	○：5	○：5	○：5	○：6
2 にぎわい創出・地域活性化への貢献	①拠点性	○：1	○：3	○：3	○：2
	②集客性	○：4	○：2	○：4	○：1
	③可遊性	×：1	○：3 ×：1	○：4	○：2
	④既存施設競合	○：1 ×：3	○：4	○：4	○：6
3 財政負担の軽減	⑤経済性	×：4	○：2 ×：2	○：2 ×：1	○：6
	⑥柔軟性	○：1 ×：1	○：1 ×：1	○：3	○：5
4 関連計画との整合性	⑦周辺環境との調和	○：1 ×：1	○：1 ×：1	○：2	○：2 ×：1
	⑧公共施設経営	×：5	×：3	○：2 ×：1	○：6
	⑨創生総合戦略との関連	○：1 ×：1	○：1	○：2	○：3
合計		○：14 ×：16	○：22 ×：8	○：31 ×：2	○：39 ×：1

○①～④の活用策における優位性や課題を次のとおり整理した。

①	
②	
③	
④	

跡地活用にあたって、次のとおり求められる機能とそれを実現するための活用を取りまとめた。
.....
.....検討・整理されたい。

-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-

③ 附帯意見

- (1)
- (2)
- (3)
- ・
- ・
- ・

第10回 日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会（議事概要）

- 1 日 時 令和3年9月2日（木）午前10時～
- 2 場 所 市役所本庁舎7階 全員協議会室
- 3 出席者 (1) 委員（Web会議1名）
柳委員長、福山副委員長、齋藤委員、木田委員、堤委員（Web会議）、湯口委員
(2) 事務局
高橋企画推進部長、河井経営統轄監、渡邊次長兼政策企画課長、平田政策企画課長補佐

4 内 容

○委員長挨拶

前回、皆さんに議論していただいた比較評価について〇△×をつけ、それをまとめているので議論したい。報告書のまとめ方について意見をいただきたい。よろしくお願いします。

(1) 「一定の方向性」を示すまでの手順について

○柳委員長 行程表について意見はあるか。残すところあと2回報告書の確定と提出となっている。

(2) 活用策の比較・評価について

(a) 日本庁舎等跡地活用に関する報告書について

○委員 比較評価と報告書は対になるので、その辺を踏まえながら協議をしていただきたいと思う。

○委員 資料2の一番下①～④があるが小項目の記号が①～④と重複するので、当初からあったA1、C1・2、E1の方が分かりやすい。書式で言う資料3P3の〇×の説明がないので追記していただきたい。資料3P2「はじめに」の2段目。「丁寧に検討してこられた」の主語が鳥取市。ここは委員会にした方がいい。検討したのは委員会である。比較評価については、また議論したい。

○委員 今の意見は併式の話。形式についてはいかがか。

○委員 附帯意見のところ。この報告書も今後どう活用して欲しいかというようなことを記載してはどうか。今回の専門家委員会は10回と、非常に回数も多く、また、その間にアンケートやワークショップをやったり、これまでにない手続き、意思決定のやり方をやってきたことに対する何らかの評価・思い・考え方を附帯意見としてもいいと思った。

○委員 形式について意見はない。

○委員 同じ意見で、ワークショップとかアンケートとか積み重ねたものを大事にしているので、もう少しそのボリュームがあってもいい。委員が言われたように、この資料3P3(3)の記載が足りないので追記する必要がある。

○委員 10回の専門家委員会の経緯について、もう少しステップがわかるような形で記載していただけるといいと思う。報告書に今回の評価の〇△×の簡略版を記載する方向で考えられていると思うが、合計点が気になる。合計してしまうと、各大項目・小項目は同じ重みづけで評価するということを暗に言っている。それについて我々は合意していない。合計を見ると個人としての思い・順番は合っているが、値としたときに違う感じもする。この前の議論で、例えば経済性は一つでいいとしてまとめたことで軽くなってしまったわけである。にぎわい創出の評価は4つあるので、そこの評価がぐっと高くなる。見栄えとしては難しいが、〇が多いところに網掛けをすとか4つの大項目でどれが一番多かったかという方が、質的に見てわかりやすくミスリーディングしない方向があればと思う。単純に合計を消す方法もあるし、あるいはここで、この点数で重み付けはこれでいいと皆さんと合意することもあるかも知れない。

- 委員 今の委員の話で4つの大項目でまとめる話と合計欄がいないのではないかという話と○△×の説明がないということだったので検討していただきたい。資料3P2。2旧本庁舎等跡地活用(1)基本的な考え方と(2)関連計画との整合性が二つに分かれている。市長に出す報告書であり(2)関連計画との整合性は当然の話である。(2)は(1)に入れてしまえばすっきりする。今回は(3)求められる機能とそれを実現するための活用策がメイン。「活用策の提言」という題目では審にした方がメリハリがつく。報告書については、今の意見を反映して作成したとき台を見ていただくということでまとめ方を検討したいと思う。中身をどうするかということだが、まずP4について意見をいただきたい。
- 委員 専門家委員会で4つの活用策に絞って意見を言う流れだと思う。活用策の①～④まで一つずつ整理した方がいいと考えている。活用策を整理した後で方向性はこうであるという提案になると考えている。①多目的ホールについては専門家委員会での評価は相対的に低かったということでもいいと思う。市民の方の「ほしい」という意見を考えなければいけない。私なら隣のとりぎん文化会館を有効活用すれば十分対応できると考える。②・③屋内施設は他の施設で代用できると思う。②・③はにぎわい・集まる・憩いの場・コミュニティの整理になっているので、何が必要かと言えば、人によって違うが、机とイスがあって、勉強したりお茶を飲むスペースだと思うので、とりぎん文化会館のスペース・大空間に机とイスを配置し、イベントがなければ、そういう使い方をするという整理をすればクリアできる。屋内施設は机とイスがあれば対応できるという整理でいいと思う。④緑地公園にする最大の理由は必要になったとき代替地として使えるという認識。逆に言うと明確な必要性がないものは作る必要がない。防災についてはしっかり準備しておく。④緑地公園を中心に整備を考えていくということでしょうか。
- 委員 報告書のフォーマット、構成について、市として異論がなければ直していただければと思う。1個ずつ市に確認したい。報告書ができたとき自分の意見と違うとなっても困る。
- 事務局 意見についてはその通りだと思う。この報告書は委員会から鳥取市へ提出していただくもの。そういった目線で、つくり直しが必要なのかなと思うので、修正する。
- 委員 基本的な考え方と関連計画の整合性をまとめることについてはどうか。
- 事務局 おっしゃられる通り関連計画の整合性も、当然基本的な考え方の中に入っている。そういった部分についても、言われたところを勘案し修正したいと思う。
- 委員 P3委員が言われた4つの大項目を整理するのか点数化するのか。
- 委員 ○×の数値が入る報告書だと生々しい、ダイレクト過ぎる。例えば、一番上が「全市民が活用することができる活用」ではなく、本来は高次都市機能である。例えば、高次都市機能という意味だと④緑地公園が多かったということがわかればいいと思う。
- 委員 資料3P3について、一覧がこのままの形で載るのは可しく違和感がある。一旦○△×ですべて回答はしたが、どちらかという、今日のこの委員会の中で議論があってからでなければ一概に○△×を決めてしまっているのかなと思ったところもあった。今日の委員会場で議論した結果を踏まえてどう表現していくのかというのはもう少し編集を加えていただいた方がいい。
- 委員 評価について委員会での意見も踏まえて4つの活用策にどのようなコメントがあって、ここに反映させて、評価をするのか議論していきたいと思う。4つの活用策について皆さんの今の評価を聞いてから考える。①という記載ではなく、A1という記載についてはいかがか。
- 事務局 表の整理の仕方、確かに同じような記号がダブるのは修正する。
- 委員 委員が言われたプロセスの説明はどうするのか。(2)基本的な考え方の下だと思うので、そこに加えていただくということでよろしいか。
- 事務局 我々が提案したフォーマットであるが今日の議論で修正は当然必要になってくる。
- 委員 一つのアイディアを提案する。資料3P1会議開催経過とあるが同じタイトルなので、例えば下に、キーワード書いておくとだいぶ違う気がした。
- 委員 皆さんの思いをどういうふうにかくかという話。ボリュームがあるが経過とその議論の内容も記載してはどうか検討してほしい。一番大きいのは活用策の評価。資料3P3と資料2のデー

タ。皆さんが評価された点・ポイント・思いを簡単に披露していただければと思う。

○委員 資料2の結果は委員の中の方向性を確認する資料であって、プロポーザルのように点数で評価されるものではないと思うので、いろんな項目、いろんな視点で見たというだけだと思う。資料2はまとめる必要がないと思っているのが前提である。どの活用策が一番いいですかと問われるなら、この委員会では④緑地公園だろうという程度の話。4つの活用案に絞ったので1つ1つ対応策等を整理した方がいいと思う。何を重視したかというより、市民の方が望む施設に対して委員として整理・方向性として、普通に考えたら〇が多い方を優先して整備した方がいいのではないかしらと思うし、×が多いものはいろんな課題があるという整理でいい。①多目的ホールは費用もだが、本当に必要なか問われたときに、他の施設で代用できるという整理でいいと思う。これが必ずしも正しいわけではないが、この委員会でそういう整理ができるのではないか。

○委員 これを絶対的な評価ではなく相対的な評価として使って報告書にまとめればいいという話。

○委員 せっかく4案出てきたので専門家委員会として、どういう判断・評価をするかというのは、当然、入れなければいけないことだと思っている。その上で、もう一段、別の角度で、全体を通じて専門家委員会として今回の結果をどのような形で評価するのかを、もう一項目入れてもいいのかなと思う。おそらくこれを受け取った市としては、ここからより具体的な作業を進めていかなければいけないと思うので、そのときの基本的な考え方・ベースになるものとなるようなものが、専門家委員会からこういう形で出てきていますというものが必要になると思う。ただ4案の評価をするというだけでは済まなくて、もう一つ評価を加える必要があるのかなというふうに思っていて、そういう中で、先ほど委員が言われたことにも関わるが、専門家委員会として見ていると、できるだけやっぱり固定的なものは作らない方がいい。箱物はできるだけ作らない方がいいというのは、おそらく一致した評価になっている。そして、それについては、先ほど委員が言われたが、既存の施設、県の施設であるとか、あるいは民間の施設であるとか、そういったものの利用についても、今後は考えていくというような、従来とは違った、行政の施策の進め方、そういう必要性があるのではないか。④大震災時の避難拠地及び復旧活動の拠点としての機能を備えた緑地公園がある。防災はすごく大事なことであるが、急いで、この場所を何かにしなくてはならないという緊急性がもしないのであるならば、あまりそこは無理なことはしないで、将来的に何か必要になったとき、あるいは、将来すごくいい知恵が出てくるのを待ってここを考えてもいいというような要素を、この委員会としては一つ入れてもいいのかなと、これまでの議論を通じて思うので、私がまとめるのであればそんな感じにする。

○委員 今の意見は、最後のP4の附帯意見で、緑地公園はコンセンサスが得られているので民間の施設の有効活用を考える緑地公園にするとか、将来を見据えた施設にするとかを、附帯意見として織り込んでいただければと思う。別の角度から評価を入れたらというのは、具体的にどういうことか。

○委員 まだ整理がついていないが、何か新しい施策・活用策を考える時、もしかすると鳥取市の今後の基本的な考え方というか、市民と一緒にこういう風に考えていくみたいなの、そういったものが一つ、今回、この議論の中で得られたことがすごく大きな成果だと思っている。合意形成論・意思決定の方法。そういうところが一つあると、今後の議論の進め方、あるいは今後の鳥取市政にとって、今回、時間をかけてやったこの作業の意味というような、もう一つ別の角度から、アピールできると思う。

○委員 これまでの議論の過程で、市民の方の将来のことを考えて議論した点をどこかに入れていただくということ。それも踏まえて、活用策を考えて欲しいということを入れてほしい。

○委員 いろいろとまとめていただき、分かりやすくなってきた。私も基本的には委員の考えにはほぼ同じ。攻めていくのか守っていくか二軸があったとして、二者はトレードオフの関係になる。資料2の下の整理が非常にわかりやすいなと思って見た。集客性を高めていこうとする施策を考えると、多目的ホールでなくてもいいのかも知れないが何かある種コンテンツを作っていくか

といけない。でもそうすると自ずと投資が必要になるので、イニシャルコスト・ランニングコストがかかる。一方で、守っていくと緑地公園という選択別になってくる。先ほど委員からあったように、もう一つの観点として、今やるべきかどうかというところがある。判断の軸として、今やるべきかどうかを考えていく必要があると思った。時間軸で言えば、今は必要じゃないかも知れない、差し迫ったその緊急性というところはないかも知れないが、10年後20年後を考えたときに、今、この打ち手を打っておいた方がよさそうだ、やっていく必要・価値がありそうだと説明がつけば、攻めに舵を切っていくという選択肢もあり得ると思う。この①～④を評価したとき、これだけを見ても決めきれないなと思った。であるならば、今決められないのであれば、ある種保留ではないが、今、考えられる選択肢の中で可能な限り妥当性が高そうな緑地公園で、後でも変えられる可変可能な状態にして、保持しておくというところが一つだろうなというふうに思う。これまでワークショップを何回か実施してこれられている中で、一番気になったのはコロナの影響も大きくあったと思うが、参加者の数が非常に少なかったと聞いているので、今後もう少し、市民の方々の巻き込みというところも含めて利活用を詰めていく、引き続き考えていく場にしていただけたらいいと思った。

○委員 各委員の意見がよく似ている。攻めの活用なのか守りの活用なのかという話。将来のことを考えると攻めの活用はお金もかかるし柔軟性がないということで、守りの活用を中心に活用を考える。実運用する時、具体的な話が進んだ時は、もう少し市民の方を巻き込んで検討することを付帯意見に入れてはどうかという話。

○委員 この報告書を市長に出すということ。P4のイメージがっていない。P4に結構書き込むことになればP3下の①～④の優位性と課題も織り込んだような内容になるのであればP3はいらない。委員も言われたように、今、整備して後戻りができないようなプランより、若い方のアンケートでは、建物に対するニーズも思ったより高かったという結果もある。我々は何年か後にみんな活用しなくなるので、若い人たちが、使いやすいような状態にしてバトタッチするような案・視点で考えていただけるようなことが一言書けたらと思っているP4にどの程度書き込むのが結構重要なかと思っている。

○委員 将来のことを十分考えるというのもやっぱり大事なことだと思う。

○委員 最後のまとめについては、4つの活用策を選んで評価したわけだから、この4つの活用策を1つずつ整理して記載していくことでいいと思う。評価に財政、FM、競争性がある。近くに同様の施設があるかどうか、中心地でないといけないものなのかどうかなど、いろんな修飾語・キーワードを用いながら記載していただければと思う。付帯意見になるかどうかかわからないが、この4つの活用策の検討の段階では評価されていないアンケートの情報として、建物を中心とする活用が4割あったので、その辺は書き込まないといけない。一方で広場中心も4割近くになるので拮抗しているということ、あとはそれをどう利用するかで、市民の意見が変わることは想像できる。今の段階では、我々が思った以上に建物に対するアレルギーはないということは書いておかないといけないと思う。あとは、すごく丁寧に、もどかしいくらい丁寧に市民の意見をいかに反映してやっていくというスタンスでやってきた委員会であった。私が唯一関連している、その前の跡地検討委員会も非常にもどかしい委員会で、これは跡地を考えるというより、跡地の話をするのに、どうしたら市民に「いやいやそんな話は聞いていない」と言われないようにするには、どういうプロセスにすればいいのかを決める委員会の前の委員会をやってきた。この報告書に書く必要はないと思うが、市民の人の意見を無視しないよう、勘違いで進めないような方向を探り探り、数年間探って最終的にこの委員会に来ているというプロセス、うまくいったかどうか知らない、それは市民の方が判断されると思うが、その辺の思いも含めて、少し記載していただきたいと思った。もう一つ、4つの活用策で評価をしたが、アンケートに立ち返ると10%ぐらいの意見がアンケートから得られている活用策もある。項目をまとめると言及できるようなものがあるので付帯意見に入れてもいいと思う。例えば、この地域はやまびこ館もあり、中心市街地活性化基本計画では歴史文化ゾーン。もともと薬研堀もあり歴史

- があるところなので、その辺のイメージ・キーワードとして残せるものがアンケートでも、拾えるものがあると思うので、附帯意見に入れておいて将来のキーワードにしてもいい気がした、
- 委員 基本的に皆さんの意見としては、柔軟性のあるものということ。将来性の話、財政、民間活用を取り入れるとかは、附帯意見として入れていただくということ。4つの活用策は〇×では評価できない。比較評価については、〇×の点数で評価するよりも優位性や課題を文章で評価したほうがいいのか、皆さんのコンセンサスを得たいので意見を願います。
- 委員 資料3 P 4は1～2枚で十分。逆に整理しておかなければいけないのは4案に対する専門家委員会の総意、A～Eの視点から見た対応策、点数だと上から取るという話になる。資料2の下の表の整理でいいと思う。これ以外にプラスαがあれば追加する整理でいいと思う。
- 委員 評価については優位性や課題について委員会で議論されたことをまとめて最後のところに持っていく建て付けでいいか。
- 委員 あくまで、評価表に〇△×をつけるのは、4つの活用策を相対的に比較した時にどんな感じになるかと点数をつけただけ。大事なことは、この4つの活用策のどこを重視しながら活用を考えていくかというところが中心になるので、無理に点数をつける必要はないと思う。先ほど繰り返しになるが、4つの案それぞれについて、それぞれの視点から見たときに、どういう優位性あるいは課題を持っているかをきちんと整理するってことが大事である。
- 委員 資料2の下のまとめということで、もう少し修正が必要であれば修正する考え方でいい。
- 委員 点数化するのではなく、この委員会で評価した優位性とか課題を最終的な提案として持っていくという立て付けでどうかという話。
- 委員 それでいい。その時にはどの項目で検討したのか書いて、あとは言葉で書いてあるといい。
- 委員 どの評価項目に基づいて検討したか記載する。活用策については、基本的には大震災時の避難地及び復旧活動の拠点としての機能を備えた緑地公園を基礎とする。それについてはいろいろ皆さんの意見があったと思う。将来性を考えた時間軸を考えたり、規制を考えながら活用策を考える等、いろんな附帯意見をまとめていただく。あとは意見のところにカフェ・イベント等の意見もあったので、それも検討して欲しいというのを上に書く。附帯意見には、民間資金の活用、鳥取市の独自性のある公園とか運用方法を記載する。上の方は活用例。上と附帯意見をどう分けるか意見を聞きたい。
- 委員 具体的な意見は附帯意見。4案については、評価・課題・視点を記載すれば十分。4つの活用策の整理を記載する。資料2の下のような整理。修正の必要があれば修正しておく。資料3 P 3は必要なく、P 4に記載すればいい。
- 委員 P 3をなくしてP 4に記載する話。P 3は簡単に優位性と課題を検討した結果を書くのか、削除するのか。
- 委員 大分整理された。附帯意見に対しては1点だけ申し上げたい。今後、この跡地について具体的に活用策を検討していくわけだが、検討にあたってどういうことに留意して欲しいのかを記載する。委員から、すごく丁寧に検討してきたということがあった。具体的検討にあたって、しつこいぐらい住民の皆さんの参加が保障されるような、丁寧な場のつくり方、意思決定の仕方を持って欲しいので、附帯意見に委員として入れて欲しい。
- 委員 これまでのプロセスも踏まえ、具体的な運用面の検討の際も、住民の方の意見を十分入れてほしいという話。
- 委員 資料2の下の①～④のまとめに関してだが、概ねこの整理でいいのかなと思いつつ、もし最終報告書の方に入れられる形になったら少し整理が必要、この表だけを見ると、④は言わずもがなだが、③も特にデメリットがないと読める。そうであればやればいいと読める。③もOKとした途端に何かしら屋内施設を整備する方向、ニュアンスとして、この委員会として、整理する形になると思うので気になる。ハードを絶対やめてくださいという意図ではないが、そういうニュアンスが残る。最終的に緑地公園にしますという提言になった場合、そのメッセージの出方が非常にデリケートなものになると思っている。議論した結果どうにもこうにも決められ

ないので、緑地公園にとりあえずした方がいいですよという、苦しい結果となりましたというもので伝わってしまう可能性もある。そこはやはりこれまで市民の方の意見も丁寧に作り上げながら、10回にわたって議論してきた結果、こういう視点で、今の時点ではオープンスペースとして残しておく方が、妥当性が高いのではないかというような説明が必要。

○委員 P4の四角で囲んだところ。ここについては基本的に皆さんのコンセンサスとしては、大震災時の避難地及び復旧活動の拠点としての機能を備えた緑地公園が主たる利用。市民や市の思いを附帯意見として記載していただく。○△×にいろいろ書くと焦点がぼける。主たる利用として、守りと攻めの活用と面白い言葉を言われた。将来のことについて柔軟性を持たせ○のところに入れるのも一つの考え方。

○委員 P4のイメージがついていない。4案すべてについて述べるということ、附帯意見は、いずれの活用策を市が決めたとしてもこんな視点を持ってくださいということを書くイメージか。それとも上の補足になる感じか。

○委員 P4の上は活用策を記載し、下の附帯意見は運用した時のことを考えて欲しいという話。

○委員 委員が言われた方法を附帯意見に書くこともできる。今の時点で委員の方法に反対する意見を持ち合わせていない。各委員がアンケートをまとめていくだけの仕事をしているわけではない。それぞれの思いを附帯意見に書ける。

○委員 書き方の問題、どこに何を書くのか。

○委員 今回は跡地利用についてであるが、議論しているのはどう整理をするのか。附帯意見としては運用としてどうするのか、議論してきたことを記載しその他を附帯意見として記載する、たたき台を見て議論すればいい。

○委員 建物の意見も市民の方の思いとしてはあるので、それも附帯意見に入れて、将来的な話として転用できるように緑地公園を検討されたいという話を附帯意見に入れてもいいかなという話。構成の仕方。上に入れるか附帯意見にするか難しい話だと思うが、整理しないとイケない。市として意見はあるか。

●事務局 議論いただいており、附帯意見は、委員の意見を入れていただいたり、それから、運用について入れていただければいいのかなと思う。いずれにしてもこれは上の方というか活用策の方の整理の方がいいとか、これは附帯意見の方がいいということもあると思うので、そういったまとめ方、今日の意見をいただいて整備をする必要があるのではないかと、今話を伺って思った。

○委員 委員の方から今日終わった後で、附帯意見があれば、意見をいただきたい。

●事務局 もう一度、報告書の案を作り、皆さんに見ていただき最終議論をいただきたいと思っている。

○委員 報告書のP3は点数ではなく、どういう点を評価したということをもとめてP4で整理する。将来性を考えると攻めの活用ではなく、柔軟性を持った活用ということで、大震災の避難・復興活動を備えた緑地公園の整備っていうのが主たる事業として整理される。附帯意見としては、将来的に若者も活動の場となる多目的ホールを考えたかどうかという意見もあった。今までの意見以外に何かあるか。

○委員 市民の皆さんがもう少し当事者意識を持ってほしい。やはり市民の皆さんが持っている情報は限りがある。今回、市がいろんな情報を出してくれる中で、市民の皆さんも自分のこととして熱心を持ってくれた方が多いと思う。専門家や行政に任せるのではなく、こういった作業を通じて、市民自らもこういった問題に関して、きちんと自分の意見なり、あるいは将来の鳥取市に対して、こうあるべきだみたいな、そういったことをぜひ考えて欲しいみたいなメッセージがこの報告書には込められているんだと訴えられるといいなと思う。

○委員 今の意見は最も。もし都市公園を整備するのであれば、将来的には市民の意見も吸い上げて活用も検討する。別にプロセスを検討した委員会の話があったのでどこかに入れてほしい。

○委員 資料2の最後の報告を記載することでいい。集客性や回遊性の認識が委員の中でも違う。多目的ホールでイベントがあれば人は集まるが、逆に言えば、イベントに興味のある人しか集まらない。私のイメージだと集客性はない。方向性に異論のある人は市との違いを提案してほしい。

デザインの設計までには整理しておかなければいけない。整理されていないので議論が発散してしまう。委員会というより市の方で市民と議論しながら整理していただきたい。附帯意見としてお願いしたいのは、市として方針を決定するまではイメージされているが、跡地をいつ頃までにどの様に整備するのか、まだ何も決まっていない。住民にとって跡地をどう整備するのか興味がある。何年以内に整備するのか、20~30年後に整備するのか、時期をイメージすることが重要。

○委員 今の意見は附帯意見として、例えば集客性、緑地公園でも設計や運用で集まるとか市民の方の意見を十分聞いて、活用を検討していただきたいという意見。行程で活用を速やかにということも市民の方にきちんと示す必要がある。

○委員 資料2①~④の言葉の使い方の話。○△×をつけながら集客性が高められるか回遊性が高められるか、中身を誰がどう動かしていくのかに依存する。①~④を相対的に比較してみると、何か作った方が、何も作らないよりも集客性を高められる可能性は高いかも知れないという程度のものだと思う。集客性を高める可能性が高いものの経済性や公共施設経営に課題がありそうという表現が一つ考えられる。仮に、緑地公園という方向性がこの委員会としてある程度の合意が取れたとしても、今後の部分については引き続き市民の方々と意見を交わしながら、オープンスペースの活用というところで、一緒に関わっていただけたら、そういったポジティブなメッセージも併せて出していただけたら、より市民の方の理解、納得感も高くなると思った。

○委員 方向性が決まった後、市としてPIを作るという話だと思うが、P4に記載してほしい。

●事務局 この報告書は専門委員会から市に対する意見で、市の考え方を書くものではないと理解している。報告書P3がなくなる方向だったので、この表現でいいのか議論をしていただければと思う。委員から、P4四角囲みのことについて意見があった。趣旨として防災、緑地公園ということをや四角囲みの中で、明記しておくべきだと発言があったが間違いはないか。

○委員 最初の○×のところ。活用策の優先性や課題、集客性や回遊性について利用の仕方、設計の仕方によって変わってくるか評価をする話になったと思う。P4の四角囲みについて、主として大震災の避難・復興活動を備えた緑地公園を整備・検討されたいと記載、屋内施設は、住民の意見を十分聞きながら、今後、検討されたいという話が下にずっと続いて附帯意見が続くという感じかなと思う。

○委員 市に聞きたい。1つの方向性を示す必要があるのか。4つの活用策の評価でいいのか。

○委員 先ほど、委員会として1案に絞るわけではなく、4案について委員会として評価をし、それを今後、どれにするかは別にしても、検討してもらうことをこの委員会としてのまとめに思っていたので、四角で何か一つを中心にするのは別になくてもいいと思った。

○委員 その整理でいい。何か絞っていく必要があるかなと思う。

○委員 四角は4つ。多目的ホールや屋内施設、緑地公園と4つを中心整理して、検討して欲しいと記載。下に検討する項目を列挙する。四角に4つを並べて、下に以下の点を留意しながら、この4つについて検討されたいという話。素案ができれば皆様に示し意見をいただきたい。

(4) その他

●事務局 今の意見を取りまとめて、報告書の案とする。委員会を開催しチェックをし確定させる。近いうちに専門家委員会を開催したいので日程調整する。